

## 文化

## 芸術の力で紛争なくしたい



## 画家 近藤幸夫さん (新潟市出身)

新潟市出身で東京都国分寺市在住の画家、近藤幸夫さん(62)の提唱で、国籍、民族、宗教などあらゆる違いや隔たりを芸術の力で乗り越え、相互理解を促進するためのプロジェクト「国境なき美術展アート・フォア・オール」が動き始めている。第1弾として9月からロシア国内4力所の巡回展が決まっている。活動を支援するための開催実行委員会(新保勇代表)も新潟市にできた。

## 第1弾ロシア 支援者募集

現代アートの作品を海外で展示してもらおうとにも、解説会や制作体験を通じて交流する内容だ。近藤さんは「失われゆく人間の尊厳と自然への畏敬」をテーマに日本画の画材を用いて、古里を追われた難民、シベリアをはじめとする北国の野生生物などを描いており、海外では現代アートとして評価されている。

2012年には招かれてロシアで作品を披露。解説と制作体験会も開き、児童養護施設の子ども、目の見えない人をはじめ障害のある人も鑑賞、参加し無表情だったのが笑顔になるのを目の当たりにした。

「芸術作品が人の心を動かす力を実感した。紛争をなくしたい、命を大事にしたいと言葉で訴えても日本語では通じない。絵は無言でもそれができる」と振り返る。同時に「芸術には心身が傷ついた人が生きる力を回復するのを助ける力がある」こともあらためて実感。現代アートに触れる機会が少ない地域での交流を願うようになり、プロジェクトを提唱した。

第1弾は、シベリア・ノボシビルスク国立美術館をはじめロシア国内4力所で展覧会と体験会を開くことが確定している。ロシアの受け入れ先が国際交流基金に資金支援を申請中だが、上限があり必要経費の全額

「国境なき美術展」で展示を予定している難民がテーマの大作を前に話す近藤幸夫さん  
 新潟市中央区  
 このため活動を支援しようと、プロジェクトの趣旨に賛同した人が実行委員会を立ち上げた。第2弾で17年にはスロバキアで開催する計画も進行中だ。  
 プロジェクト名にあるアート・フォア・オールは、あらゆる人に芸術をという意味で「国境だけではなく都市と地方、障害の有無、経済格差などさまざまな違いを乗り越えていこう」という願いが込められている。ロシアの巡回展では、目の不自由な人には絵に触って鑑賞してもらうことも予定されている。  
 第3弾以降はより多くの芸術家に参加してもらい、日本の現代芸術に触れる機会が少ない海外の地域を選んで開催していく予定だ。  
 そのためにも「まずは活動の理解者を増やし、資金面で協力者を募っていききたい」と話している。  
 新潟事務局は新潟市中央区西堀前通1番町700、ギャラリー蔵織内、問い合わせは025(211)8080。メールアドレスはinfo@art-fa.com